

隠しよもい財政破産！



日刊 労働千葉

80.9.7
No. 全国版 64

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九(公衆)四三三二七二〇七

第36回全国大会報告(その1)

★★★★★★★★

全国の動労組合員のみなさん！
動労第三十六回全国大会が名古屋市で開催されましたが、この大会を通して、「本部」反動分子のセクツ的動労私物化の状況と運動的破産がより一層鮮明となりました。今後何回かにわたり、「本部」反動分子の破産の状況を明らかにしてゆきたいと思えます。

★★★★★★★★

デタラメな組織運営 ＝「千葉対策」の破産

「本部」反動分子の破産の第一は、「闘争会計四億六千万円の赤字」に示される財政的破産状況が、かくしよりもなく露呈されたということ。この財政破産の第一の問題点は「四億六千万」という赤字額にあります。

これは昨年熊本大会で承認された予算の倍額に相当します。しかも、この赤字の理由が「千葉対策」と「目黒選挙」というのでは、組合運動のイロハもわからない財政運営であると言わなければなりません。

何故ならば、「千葉」も「目黒」も昨年大会時点ですでに予想されていたことであり、当然、予算として必要なだけ計上されていなければおかしいのであり、この「四億六千万の赤字」ということは、「本部」反動分子が「予算の立案能力もない」ということか、あるいは「常軌を逸した組織運営を行った」のかのいずれかであることを示しているのです。

財政と運動は労働組合にとって車の両輪であるというイロハすらわからない「本部」反動分子のセクツ的動労私物化が、動労の未来を全く展望のないものとしているのです。

このようなこともわからずに「千葉に財政的に破産する」などというデマ宣伝を行う「本部」反動分子のデタラメさは言うまでもないことであり、同時に、総評大会で「動労は人も金も出す」と大見栄を切る東京地本・松崎委員長などという存在は、マンガ以外の何物でもありません。

怒る全国の動労組合員

第二に、「四億六千万」の赤字は七九年度、つまり、八〇年三月末までの赤字額であり、その理由として「千葉対策」と共に「目黒選挙」があげられていることに、全国の仲間は大きく疑問と怒

りを感じているということです。

何故ならば、「目黒」対策で四月以前に地方へ交付された金額は全くと言ってよいほどなかったであり、「四億六千万の赤字」とは、すなわち正義性の全くない動労千葉破壊策動の破産そのものであるということ、全国の動労組合員はよく知っているからです。

しかも、「目黒だから……」「権力の介入があるから……」と言うことで、この「四億六千万の赤字」を大会で論議すること自体を封殺しようとするなど絶対に許せないことであり、全国の戦闘的・良心的組合員が「八鉄メモ」策動を拒否したことは当然であると言わなければなりません。

許せない規約・規則無視

第三に、この「四億六千万の赤字」が規約・規則を全く無視した取り扱いの上に成り立っているというところを見なければなりません。

決算報告では、闘争会計赤字は「一億五千万」となっていますが、これは、「四億六千万」という赤字額の大きさに驚天した「本部」反動分子がスト生活資金や第二闘争資金などから三億余の資金を流用し組合員の目をごまかそうとした枯息な思い付きなのです。

しかも、これら資金の流用については、大会や中央委員会の承認が必要であるという規約・規則があるという意識が、彼等「本部」反動分子には全くない、つまり片肺執行部は組織運営のイロハも知らないということの何よりの証明として、この「四億六千万の赤字」があるのです。

全国の動労組合員のみなさん！

動労組織をセクツ的に私物化するためには、あえて規約・規則をも無視する——このような「本部」反動分子の専制支配を粉碎し、動労大改革を実現しようではありませんか。

よ！ 粉碎を攻撃組織で団結な強固の家族・組合員全組